

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			快適に過ごせる環境設定ができるよう業者によるエアコンの点検と清掃を行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善のための目標設定と振り返りはミーティングで情報を共有し、話し合いを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			決めることに時間が掛かるものや人員確保が難しい等改善が出来ていないものもある。頂いた意向等は真摯に受け止め、改善に努めていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は保護者・職員・法人管理職の意見をもとに改善を行っている。今後は第三者による外部評価を検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		STIによる定期的な勉強会を行っている。	今後、外部の研修にも積極的に参加し、保育や支援に活かせる情報を職員で共有していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		アセスメントツールは使用していないが、状況によって活用も検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月の予定表を作成し活動が固定化しないように配慮している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティングを行い、保育に携わる職員で活動内容の確認や支援について話し合っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		保育後や翌日の朝のミーティングで振り返りを行っている。出勤していない職員にも周知して情報共有を行うためノートも活用している。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		登園した日の様子を活動ごとに記録している。	記録をもとに検証・改善につなげていけるよう記録の取り方や内容など検討していく。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		前期と後期にモニタリングを行い、保護者へ説明を行っている。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			サービス担当者会議は行われなかったが、会議が実施される際には積極的に参加していく。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて各施設へ訪問したり、電話等で情報交換を行っている。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じてプロフィールシートの作成・共有を行っている。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修などで他事業所とも一緒に参加する機会はあるが、様々な専門機関と連携していけるよう検討していく。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		法人行事への参加や事業所内で定期的に開館するNPO活動のおもちゃ図書館に参加することで地域の子どもたちと関わる機会がある。併園している子どもは個々に関わりの場を確保している。	おもちゃ図書館なども地域の子どもたちに広く参加してもらえるよう広報活動を行っていく。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			参加の機会があれば積極的に参加していきたい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者への	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		保護者とのやり取りの中で適宜アドバイスをしたり相談に乗ることで保護者支援を行っている。	専門職による保護者向けの勉強会を適宜行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者同士が連携していけるよう、勉強会や行事の機会を増やせるように検討する。	

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		新型コロナウイルスの影響で行事が縮小し交流の機会が少なくなりましたが、少しずつ開催できる行事も増えてきている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルはあるが、周知の仕方や訓練について検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災・避難訓練は課題保育の中で年に2回以上行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者の方に医師からの指示などを含む詳しい状況を聞きとり、対応をしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット案件が起きた時に記録し、会議等で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止委員会を開催をしている。また、会議の中で虐待に繋がる支援をしていないか検討・確認を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		個別支援計画への記載と保護者への説明を行い、了解をとっている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			快適に過ごせる環境設定ができるよう業者によるエアコンの点検と清掃を行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善のための目標設定と振り返りはミーティングで情報を共有し、話し合いを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			決めることに時間が掛かるものや人員確保が難しい等改善が出来ていないものもある。頂いた意向等は真摯に受け止め、改善に努めていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は保護者・職員・法人管理職の意見をもとに改善を行っている。今後は第三者による外部評価を検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		STIによる定期的な勉強会を行っている。	今後、外部の研修にも積極的に参加し、保育や支援に活かせる情報を職員で共有していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		アセスメントツールは使用していないが、状況によって活用も検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月の予定表を作成し活動が固定化しないように配慮している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティングを行い、保育に携わる職員で活動内容の確認や支援について話し合っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		保育後や翌日の朝のミーティングで振り返りを行っている。出勤していない職員にも周知して情報共有を行うためノートも活用している。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		登園した日の様子を活動ごとに記録している。	記録をもとに検証・改善につなげていけるよう記録の取り方や内容など検討していく。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		前期と後期にモニタリングを行い、保護者へ説明を行っている。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			サービス担当者会議は行われなかったが、会議が実施される際には積極的に参加していく。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて各施設へ訪問したり、電話等で情報交換を行っている。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じてプロフィールシートの作成・共有を行っている。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修などで他事業所とも一緒に参加する機会はあるが、様々な専門機関と連携していけるよう検討していく。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		法人行事への参加や事業所内で定期的に開館するNPO活動のおもちゃ図書館に参加することで地域の子どもたちと関わる機会がある。併園している子どもは個々に関わりの場を確保している。	おもちゃ図書館なども地域の子どもたちに広く参加してもらえるよう広報活動を行っていく。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			参加の機会があれば積極的に参加していきたい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者への	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		保護者とのやり取りの中で適宜アドバイスをしたり相談に乗ることで保護者支援を行っている。	専門職による保護者向けの勉強会を適宜行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者同士が連携していけるよう、勉強会や行事の機会を増やせるように検討する。	

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 15日

事業所名 めだかのいっぽ

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		新型コロナウイルスの影響で行事が縮小し交流の機会が少なくなりましたが、少しずつ開催できる行事も増えてきている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルはあるが、周知の仕方や訓練について検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災・避難訓練は課題保育の中で年に2回以上行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者の方に医師からの指示などを含む詳しい状況を聞きとり、対応をしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット案件が起きた時に記録し、会議等で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止委員会を開催をしている。また、会議の中で虐待に繋がる支援をしていないか検討・確認を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		個別支援計画への記載と保護者への説明を行い、了解をとっている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。